

パクリタキセル療法(AC後)(3週投与1週休薬)(乳)

外科 管理番号 D13

処方医:

適応: 乳癌

AC療法(21日ごとに4コースくりかえす)→

weeklyパクリタキセル療法(4週を1コースとして4コース繰り返す)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
パクリタキセル	●							●							●													

身長: _____ cm 体重: _____ kg 体表面積 _____ m² 心電図モニター必要時あり

[投与スケジュール] (_____ クール目)

DAY 1 (_____ 月 _____ 日) DAY 8 (_____ 月 _____ 日) DAY 15 (_____ 月 _____ 日)

本管		側管	
薬剤名	投与量	薬剤名	投与量
生食250mL [2時間 点滴静注]	1瓶	【内服】ポラミン錠2mg	3錠
		生食 50mL	1袋
		ファモチジン注20mg	1管
		デキサート*	8. 25mg
		【30分 点滴静注】	
		生食 50mL	1瓶
		【30分 点滴静注】	
		生食250mL	1瓶
		パクリタキセル80mg/m ²	
		【1時間 点滴静注】 [壊死性]	
		アレルギー症状注意 特に初~2	
		回投与時 ほぼ10分以内投与中	
		1時間観察	
		生食20mL	1管
		【フラッシュ】	

*デキサートは、過敏症等なければ 2回目4. 95mg、3回目以降1. 65mg まで減量可能

[適正使用基準]

- PS (Performance Status)が0~2である
- 感染症またはその疑い(CRP異常、発熱、白血球増多)がない
- ポリオキシエチレンヒマシ油含有製剤に対し過敏症の既往歴がない
- 生理機能が十分に保持され、下の基準を満たす

[DLF]

パクリタキセル:
白血球・好中球
および末梢神経障害
肝障害時用量調節

血液一般検査	項目	基準値			
血液一般検査	WBC (/μL)	4000 ≤			
	Neut (/μL)	2000 ≤			
	PLT (/μL)	10万 ≤			
	HGB (g/dL)	9. 0 ≤			
血清生化学検査	GOT (IU/L)	正常値上限の2倍以下			
	GPT (IU/L)	正常値上限の2倍以下			
	Tbil (mg/dL)	≤ 1. 5			
	Cr (mg/dL)	≤ 1. 5			
	BUN (mg/dL)	≤ 25			

心電図が正常である(心疾患・重篤な不整脈がない)

[骨髄抑制を考慮した投与量の調節]

パクリタキセル:WBC4000未満・Neut2000未満で投与中止

[前回投与後にWBC1000以下または重篤な末梢神経障害(GradeⅢ以上)を起こしたとき]

減量段階	通常	1段階	2段階	3段階
投与量	210mg/m ²	180mg/m ²	150mg/m ²	135mg/m ²

TBIL1. 5~5. 0またはGOT60~180	50%減量
TBIL5>またはGOT180>	中止

[今回の投与量]

[累積投与量]

_____ mg/body	_____ mg/body
_____ mg/body	_____ mg/body
_____ mg/body	_____ mg/body

[DLFを除く重大な副作用]

- ・ショック、アナフィラキシー様症状〔呼吸困難・胸痛・低血圧・頻脈・徐脈・潮紅・血管浮腫・発汗等〕
- ・急性呼吸窮迫症候群〔呼吸困難・低酸素症・胸部X線異常等〕
- ・間質性肺炎、肺繊維症〔発熱・咳・呼吸困難・胸部X線異常等〕
- ・心筋梗塞、うっ血性心不全、心伝導障害、肺塞栓、血栓性静脈炎、脳卒中、肺水腫
- ・難聴、耳鳴
- ・消化管壊死、腸管穿孔、消化管出血、消化管潰瘍〔腹痛・嘔吐・吐血・下血等〕
- ・重篤な腸炎〔激しい腹痛・下痢等〕
- ・腸管閉塞、腸管麻痺〔食欲不振・悪心嘔吐・著しい便秘・腹痛・腹部膨満感等〕
- ・肝機能障害、黄疸〔食欲不振・倦怠感・黄疸等〕
- ・膵炎〔腹痛・腰背痛・血清アミラーゼ値上昇等〕
- ・急性腎不全〔むくみ・尿量低下・検査値異常等〕
- ・皮膚粘膜症候群、中毒性表皮壊死症〔紅斑・発熱・関節痛・下痢等〕
- ・播種性血管内凝固症候群(DIC)